

## 1. 役割分担

進行者：

発表者：

プリント責任者 

討議会場：C棟1階・LB108 ~~討議日時：①4月11日 ②4月14日~~

## 2. 教科書のまとめ

### 第1章 話を聞き、ノートをとる

#### ●大学での講義は「話す-聞く」が中心

※大学の授業は高校の授業とは違う

- ・高校の授業・・・先生が黒板に書きそれをノートに書き写す
- ・大学の授業・・・先生は私達に向かって話しかける

\*理由→①話を聞きながら ②流れを理解 ③ポイントをメモ ④メモを元にして話を復元できるようにする。このことを大学で身につける事が大切な目標であるから。

その為には先生の話を理解しながらノートをとる！

#### ●使えるノートをとるために

ノートとは後でそれを見て、話の流れや組み立てを再現できるメモのことをいう

#### ●メモをすることは社会人になっても重要

話を聞きながら流れを理解し、ポイントをメモする

#### 1 板書写しは、ノートではない

- ・大学の授業は「話す・聞く」という関係。先生がたは話の折りにふれて、キーワード等を黒板に書きとめる。それらは話の流れを確認するための手がかりにすぎない
- ・大事なのは、話の内容をきちんと聞き取ること

#### 2 実際にノートをとる

- ・短い文を読み実際にメモをとる

#### 3 よいノートと、そうでないノート

- ・よいノートとは、時間がたってノートを見ても講義の内容が再現できるノート
- ・よいノートをとるために注意すること

#### 4 誰の考えを述べているのか、区別して

- ・自分自身が、先生が、自分の論を述べているのか、ある考え方について説明しているのかという違いに注意を払わないといけない



5 話の流れの変わり目に注意する

- ・ 話の語調の変化に注意しよう
- ・ 話の組み立てをおさえるために、話のつながりの言葉に注意しよう

6 話の組み立てを考えながら、言葉に注意して聞く

- ・ 講義そのものは…①声が発せられては消えていく“過程”でしかない ②ひとまとまりの考えの“構造”が示されている
- ・ 相手の“話し方の特徴”・“くせ”をわきまえて聞くという姿勢が必要

7 同音異義語に注意せよ

- ・ 日本語には多くの同音異義語がある。ある音を聞いたとき、話の流れから判断して適切な漢字に直す

8 キーワードを正確に理解する

- ・ 講義の中に出てくるキーワードは専門用語であるため、日常的な意味と区別する必要がある

9 記号・略語を自分で工夫しよう

- ・ 講義で再三出てくる言葉、略号で書きとめる 例) 犯罪の構成要件 → 犯一件
- ・ 詳しい説明が加わったなら、線をつかって補足を書き加える
- ・ 理論的なつながりを、略号で表す

10 自分のノートを少したってから、実際に使ってみる

- ・ 自分のノートをもとにして、その講義をとっていない友達を相手に、講義内容を再現してみる
- ・ 友達の疑問・質問にどれだけわかりやすく説明できるかが、講義内容を理解していたかどうかを計る確実な尺度になる
- ・ 大学生活では、心を開いて話せる友達をつくることも大切

【捉え方】

大学での授業が、高校までの様なノートのとり方でないのは、私達に身につけるべき大切な目標があり、又それらは社会人になっても必要であるからである。先生の話聞くにあたり、私達は話を理解しながら様々な事に注意しノートをとらなくてはならない。自分なりに工夫し、自己判断できる能力が求められる。